

■(ジョサイア)コンドル  
こんどる  
万次郎帰国・1852=  
ペリー来航・1853=1歳:

イギリスの建築家。お雇い外国人として来日し、近代日本の建築界の基礎を築いた。

ロンドンのテムズ川南岸ケニントンで、イングランド銀行員の子に生まれる。

桜田門外変・1860=8歳:  
遣欧使節・1861=9歳:  
生麦事件・1862=10歳:

ロンドン万国博覧会での展示から日本美術に興味を持つ。

禁門の変・1864=12歳:  
薩摩藩士密航1865=13歳:

家族と離れて孤独な学校生活を送って、

明治維新・1868=16歳:卒業。自立を強られるなか、**叔父でイギリス有数の建築家ロジャー・スミスの支援を受け、**  
戊辰戦争終・1869=17歳:**その弟子になるとともに、サウスケンシントン美術学校とロンドン大学で建築学を学び、**  
初の日刊新聞1870=18歳:

明治6年政変1873=21歳:

卒業すると、ウィリアム・パージェス事務所に入所。建築家としてスタートを切り、日本美術愛好者で、ロンドン万博でも日本美術の記事を執筆したパージェスの影響を受ける。

初の民間工場1875=23歳:

さらに、画家ワルター・ロンズデールの助手となってステンドグラス製作も学び、ヴィクトリアン・ゴシック様式を身につけ、

三つの反乱・1876=24歳:

英国王立建築家協会(RIBA)の懸賞設計に「カントリーハウス」を提出、一流建築家の登竜門となるソーン賞を受賞すると、建築の専任教師を切望する日本政府から招聘され、5年間の雇用契約を結んで、

西南戦争・1877=25歳:

**\*来日。工部大学校造家学教師となり、辰野金吾ら創成期の日本人建築家を育成しながら、精力的に日本の建築を見て歩き、スケッチを描き、論文にするとともに、自ら初となる実作に挑戦し、**

琉球処分・1879=27歳:

この間、チェンバレンらが中枢メンバーだった日本アジア協会に入会。**デビュー作「築地訓盲院」が竣工。**

.....1880=28歳:

日本文化研究の最初の論文「日本衣裳史第一部宮廷編」を発表。中断していた皇居謁見所の設計に従事するため、**工部省宮繕屋いとなり、雇用期限も延長。**

明治14年政変1881=29歳:

「第二部甲冑編」。宮内省主馬寮の山口融の紹介で**河鍋曉斎**入門、出教授受けつつ、極貧の**曉斎**を支え、

新体詩抄・1882=30歳:

「東京帝室博物館本館」(関東大震災で大破、一部が湯河原の銀河館となる)「宮内省本館」(のち取壊し)。

岩倉具視没・1883=31歳:

「鹿鳴館」開館(のち取壊し)。曉斎から**曉英**の号を授かり、以後、**曉斎**の「絵日記」にも頻繁に登場。

秩父事件・1884=32歳:

絵画共進会に「大兄皇子会鎌足図」「雨中鷺」を出品し、入選。「有栖川宮邸洋館」「北白川宮邸洋館」「法文科大学」。**工部省との契約終了し解雇となる。**

帝国大学始・1886=34歳:

技術面でも優れた内容を持つ「造家必携」を出版。帝国大学令公布で工部大学校が工科大学となり、パージェス事務所へ留学していた辰野金吾が帰国して主任教授。自らは講師となり、臨時建築局委嘱で、官庁集中計画の一環で学生を引率しドイツへ出張、

国民之友始・1887=35歳:

ロンドンにも立ち寄って、帰国。

初の対等条約1888=36歳:

講師も辞任するが、**誠実な人柄と真摯な作風で、政財界に知己を得、**

帝国憲法発布1889=37歳:

論文「日本の生け花の理論」。**「岩崎弥之助深川邸洋館」設計を契機に、**

帝国議会始・1890=38歳:

**\*三菱社の顧問建築家となる。この年、人間的にも大きな影響を受け**曉斎**が死去。**

足尾鉾毒始・1891=39歳:

論文「日本の花と生け花の芸術」。ロシアのシチュールポフの基本設計「ニコライ堂」の実設計を担当。

郡司千島探検1893=41歳:

論文「日本風景庭園の芸術」なども高く評価された。山口融の姪で花柳流の舞踊家前波くめと出会い、結婚。この時、引き取った娘ヘレンは、実は13年前に2人の間にできていた子ではなかったかともいわれている。

日清戦争始・1894=42歳:

三井を代表する益田孝が長年親交してきたアーウィンがこの年、駐日ハワイ公使となり、三田綱町にハワイ公使館ができ、綱町倶楽部へ展開するものになる。勲三等瑞宝章。「旧海軍省本館」「三菱一号館」。

日清戦争終・1895=43歳:

「三菱二号館」。

白馬会.....1896=44歳:

「岩崎久弥茅町本邸」(重要文化財)。

八幡製鉄始・1897=45歳:

「ドイツ公使館」。**日本永住を決意し、**

田中正造直訴1901=49歳:

一旦、娘ヘレンを留学させるため、ロンドンに帰国、

日比谷公園・1903=51歳:

「岩崎弥之助高輪邸(三菱開東閣)」着工。

日露戦争始・1904=52歳:

東京麻布三河台町に**\*自邸を建設し、設計事務所を置く。それまでの作品はほとんどが、関東大震災や東京大空襲等で、現存していないが、以後、邸宅建築を主体に、最初から最後まで全活動に従事、**

日露戦争終・1905=53歳:

娘ヘレンが日本に戻る。「松方正義邸」、

満鉄発足・1906=54歳:

娘ヘレンが帰国船中に見染められたスウェーデン海軍中尉のデンマーク人と結婚。「益田孝邸」、

アヲキ創刊・1908=56歳:

東京大学本郷キャンパス構内「ウェスト像台座」。**「岩崎弥之助高輪邸(三菱開東閣)」竣工、**

韓国併合・1910=58歳:

「岩崎弥之助家廟」。三井10代当主高棟念願の「綱町三井倶楽部(三井別邸)」着工、

大逆事件判決1911=59歳:

「アーウィン邸」竣工。**かつての師を深く偲んで「河鍋曉斎：画業と画稿」を刊行。**

明治天皇没・1912=60歳:

「岩永省一邸」(一部が目黒雅叙園句遊紀)、「東京倶楽部」。

大正政変・1913=61歳:

「諸戸清六邸(桑名市六華苑、重要文化財)」「綱町三井倶楽部(三井別邸)」竣工、

第一次大戦始1914=62歳:

「古河虎之介邸(大谷美術館)」着工。工学博士号を授与される。

21ヶ条要求・1915=63歳:

「島津家袖ヶ崎邸(清泉女子大学本館)」竣工、  
夫がスウェーデンのバンコク総領事になって娘ヘレンが異国にあるなか、孫を何人も引取って育てる。

ロシア革命・1917=65歳:

三井が綱町の鍋島子爵跡地購入し日本庭園を設けることができるようになる。**全てを集大成するような「古河虎之助邸(古河庭園大谷美術館)」が竣工、次々と現存する傑作建築を遺して、**

ベル仁条約・1919=67歳:

すでに視力が衰え、健康が勝れず、綱町別邸の日本庭園が起工し、洋風庭園の噴水着工するなか、

大暴落.....1920=68歳:

麻布の自邸で、**\*妻くめが死去した直後、脳軟化症により没した。妻と共に護国寺に埋葬された。**  
日本画はじめ、日本舞踊、華道、落語といった日本文化にも大いに親しみ、趣味に生きた人でもあった。2009年に「三菱一号館」がレプリカ再建された。